

風評に関する消費者意識の実態調査(第19回)
報告書

令和8年3月5日
消費者庁 消費者安全課

目次

I 調査の概要.....	3
1 調査の目的.....	3
2 調査の対象.....	3
(1) 調査手法.....	3
(2) 調査項目.....	3
(3) 調査期間.....	3
(4) 調査対象者.....	3
(5) 回収標本数.....	3
(6) 経年調査に関わる留意点.....	4
3 結果の集計.....	5
(1) 集計客体.....	5
(2) 調査客体数（問1・2）.....	5
(3) 基本属性に関する事項（問3・4）.....	7
(4) その他.....	8
II 本調査の結果.....	9
1 基本項目.....	9
(1) 放射性物質に関する検査の知識（問5）.....	9
(2) 家庭内における食品購入者の情報（問6）.....	10
(3) 食品産地に関する意識（問7）.....	10
(4) 食品の産地を気にする理由（問8）.....	10
(5) 特に産地に注意している食品（問9）.....	11
(6) 食品を買うことをためらう産地（問10）.....	12
(7) 風評を防止するために行うべきこと（問11）.....	12
(8) 放射性物質に対するリスクの捉え方（問12）.....	13
2 経年推移による結果.....	14
(1) 放射性物質に関する検査の知識（問5 グラフ）.....	14
(2) 食品産地に関する意識（問7 グラフ）.....	15
(3) 食品の産地を気にする理由（問8 グラフ）.....	16
(4) 特に産地に注意している食品（問9 グラフ）.....	17
(5) 食品を買うことをためらう産地（問10 グラフ）.....	19
(6) 放射性物質に対するリスクの捉え方（問12 グラフ）.....	20
3 クロス集計結果.....	21
(1) 放射性物質に関する検査の知識（問5 性別・年代・居住地域別）.....	21
(2) 食品の産地を気にする理由（問8 性別・年代・居住地域別）.....	22

(3)	食品を買うことをためらう産地（問 10 性別・年代・居住地域別）.....	23
(4)	放射性物質に対するリスクの捉え方（問 12 性別・年代・居住地域別）.....	24

I 調査の概要

1 調査の目的

被災県の農林水産物等について、消費者が買い控え行動をとっている場合の理由等を継続的に調査し、今後のリスクコミュニケーションでの説明内容を始めとする各般の風評対策及び消費者理解の増進に関する取組に役立てることを目的とする。

2 調査の対象

(1) 調査手法

インターネット調査

(2) 調査項目

食品の産地を気にする理由、放射性物質に対するリスクの捉え方、食品中の放射性物質に関する出荷制限等への意識や理解、食品中の放射性物質に関する検査の知識等

(3) 調査期間

令和8年1月15日(木)～1月17日(土)

(4) 調査対象者

被災地域(岩手県、宮城県、福島県及び茨城県)及び被災県産農林水産物の主要仕向先県等(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府及び兵庫県)に居住する20～60代の男女

(5) 回収標本数

全ての問いに回答した5,176人である。

	性別	男性					女性					合計
	年齢	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代	
	人数	(n)										
都府県名	岩手県	7	8	8	16	12	7	8	10	13	11	100
	宮城県	14	19	19	20	19	14	18	19	18	19	179
	福島県	12	14	13	15	17	10	14	13	16	20	144
	茨城県	18	26	23	24	26	19	24	22	23	25	230
	埼玉県	44	63	65	55	64	45	59	61	52	64	572
	千葉県	41	54	55	44	54	36	51	51	44	60	490
	東京都	100	126	131	92	97	95	130	120	86	103	1080
	神奈川県	62	79	87	64	70	58	76	83	61	75	715
	愛知県	50	65	66	52	57	49	60	59	49	60	567
	大阪府	52	69	75	63	74	56	72	77	60	79	677
	兵庫県	31	42	45	38	51	33	44	46	43	49	422
合計		431	565	587	483	541	422	556	561	465	565	5176

(6) 経年調査に関わる留意点

第1～18回までの調査について、調査手法、調査項目、調査対象者及び回収標本数は第19回と同様の設定である。調査項目については、震災後時間の経過により、調査目的にそぐわない設問等があること等を考慮し、それまでの継続性を確保しつつ第12回調査から設問数を減じて実施している。

各回の調査時期は下のとおりである。

- ・第18回:令和7年1月15日(水)～1月17日(金)
- ・第17回:令和6年1月31日(水)～2月1日(木)
- ・第16回:令和5年1月20日(金)～1月27日(金)
- ・第15回:令和4年2月1日(火)～2月7日(月)
- ・第14回:令和3年1月15日(金)～1月19日(火)
- ・第13回:令和2年1月30日(木)～2月4日(火)
- ・第12回:平成31年2月7日(木)～12日(火)
- ・第11回:平成30年2月1日(木)～5日(月)
- ・第10回:平成29年8月24日(木)～28日(月)
- ・第9回:平成29年2月2日(木)～10日(金)
- ・第8回:平成28年8月17日(水)～23日(火)
- ・第7回:平成28年2月4日(木)～9日(火)
- ・第6回:平成27年8月11日(火)～17日(月)
- ・第5回:平成27年2月6日(金)～12日(木)
- ・第4回:平成26年8月25日(月)～31日(日)
- ・第3回:平成26年2月14日(金)～19日(水)
- ・第2回:平成25年8月24日(土)～28日(水)
- ・第1回:平成25年2月14日(木)～15日(金)

また、回収標本の集団設定については下のとおりである。

- ・第19回、第18回、第17回、第16回、第15回、第14回、第13回、第12回、第11回、第10回及び第9回の各調査はそれぞれ異なる集団である。
- ・第9回調査の回答者のうち3,307人が第8回からの継続回答者である。
- ・第8回調査と第7回調査は異なる集団である。
- ・第7回調査の回答者のうち3,367人が第6回からの継続回答者である。
- ・第6回調査と第5回調査は異なる集団である。
- ・第5回調査の回答者のうち3,959人が第4回からの継続回答者である。
- ・第4回調査と第3回調査は異なる集団である。
- ・第3回調査の回答者のうち3,413人が第2回からの継続回答者である。
- ・第2回調査と第1回調査は異なる集団である。

3 結果の集計

(1) 集計客体

ア 調査対象数 5,176 人

イ 調査実施数 5,176 人

(2) 調査客体数 (問1・2)

ア 全体

	性別	男性					女性					合計
	年齢	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代	
	人数	(n)										
都府県名	岩手県	7	8	8	16	12	7	8	10	13	11	100
	宮城県	14	19	19	20	19	14	18	19	18	19	179
	福島県	12	14	13	15	17	10	14	13	16	20	144
	茨城県	18	26	23	24	26	19	24	22	23	25	230
	埼玉県	44	63	65	55	64	45	59	61	52	64	572
	千葉県	41	54	55	44	54	36	51	51	44	60	490
	東京都	100	126	131	92	97	95	130	120	86	103	1080
	神奈川県	62	79	87	64	70	58	76	83	61	75	715
	愛知県	50	65	66	52	57	49	60	59	49	60	567
	大阪府	52	69	75	63	74	56	72	77	60	79	677
兵庫県	31	42	45	38	51	33	44	46	43	49	422	
合計		431	565	587	483	541	422	556	561	465	565	5176

イ 性・年齢別

性年代別	人数(n)	割合(%)
男性 20代	431	8.3
男性 30代	565	10.9
男性 40代	587	11.3
男性 50代	483	9.3
男性 60代	541	10.5
女性 20代	422	8.2
女性 30代	556	10.7
女性 40代	561	10.8
女性 50代	465	9.0
女性 60代	565	10.9
全体	5176	100.0

ウ 地域別

居住地別	人数(n)	割合(%)
岩手県	100	1.9
宮城県	179	3.5
福島県	144	2.8
茨城県	230	4.4
埼玉県	572	11.1
千葉県	490	9.5
東京都	1080	20.9
神奈川県	715	13.8
愛知県	567	11.0
大阪府	677	13.1
兵庫県	422	8.2
全体	5176	100.0

(3) 基本属性に関する事項 (問3・4)

ア 職業 (問3)

「問 あなたの、御職業をお答えください。」(単回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	会社員(管理職以外の正社員)	1733	33.5
2	会社員(管理職)	364	7.0
3	会社役員、経営者	94	1.8
4	派遣、契約社員	304	5.9
5	公務員、非営利団体職員	231	4.5
6	教職員、講師	78	1.5
7	医療専門職(医師、看護師、療法士など)	178	3.4
8	その他専門職(弁護士、会計士、税理士など)	33	0.6
9	農林業	10	0.2
10	漁業	3	0.1
11	自営業(農林漁業以外)	165	3.2
12	SOHO(パソコンやインターネットを活用する小規模のオフィス。また、自宅をオフィスにする在宅勤務者。)	46	0.9
13	パート、アルバイト、フリーター	736	14.2
14	内職	6	0.1
15	専業主婦/主夫	511	9.9
16	大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生	107	2.1
17	無職、定年退職	479	9.3
18	その他の職業	98	1.9

イ 同居者の内訳（問4）

「問 あなた又はあなたと同居している御家族について、お答えください。」(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	乳幼児がいる	525	10.1
2	小学生がいる	476	9.2
3	中学生がいる	261	5.0
4	高校生又は高校生相当の年齢の方がいる	295	5.7
5	本人が65歳以上又は65歳以上の方がいる	820	15.8
6	本人が妊娠中又は妊娠中の方がいる	54	1.0
7	上記に当てはまる本人・同居者はいない	3156	61.0

(4) その他

本調査結果に掲載している数値は小数第2位で四捨五入を行っている。また、特段の断りがない限り、割合(%)は、5,176人を分母として算出した。

II 本調査の結果

1 基本項目

(1) 放射性物質に関する検査の知識 (問5)

「問 食品中の放射性物質の検査の情報について、あなたが知っていることをお答えください。」(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	基準値を超える食品が確認された市町村では、他の同一品目の食品が出荷・流通・消費されないようにしている	803	15.5
2	食品中の放射性物質の検査は東日本の17都県を中心に実施されている	398	7.7
3	原子力災害対策本部のガイドラインに従い、地方公共団体において検査計画が作成され、検査が行われている	604	11.7
4	検査計画に従い地方公共団体が行う検査結果は、厚生労働省のウェブサイトで公表されている	468	9.0
5	放射性セシウムスクリーニング法による検査では、検査結果がスクリーニングレベル(一般的には基準値の1/2(50ベクレル/kg))を超えたものについては、さらに、精度を上げて再検査(ゲルマニウム半導体検出器を用いた確定検査)を行っている	314	6.1
6	地方公共団体が定めた検査計画では、農地の汚染やこれまでの作物の検査結果等が反映されている	488	9.4
7	検査が行われていることを知らない	3576	69.1
8	その他	60	1.2

(2) 家庭内における食品購入者の情報 (問6)

「問 あなたの御家庭では、主に食品を買っているのはどなたですか。」(単回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	あなた御自身	3352	64.8
2	あなた以外の御家族	1824	35.2

(3) 食品産地に関する意識 (問7)

「問 あなたは、普段の買物で食品を購入する際に、その食品がどこで生産されたかを気にされますか。」(単回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	気にする	865	16.7
2	どちらかといえば気にする	2043	39.5
3	どちらかといえば気にしない	1237	23.9
4	気にしない	797	15.4
5	分からない(自分で食品を購入しない方)	234	4.5

(4) 食品の産地を気にする理由 (問8)

「問 普段の買物で食品の生産地を「気にする」「どちらかといえば気にする」と回答された方にお聞きます。あなたが、その食品がどこで生産されたかを気にされるのは、どのような理由からでしょうか。」(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	産地によって品質(味)が異なるから	1232	23.8
2	産地によって鮮度が異なるから	904	17.5
3	産地によって価格が異なるから	867	16.8
4	ブランド価値のある特産品を買いたいから	331	6.4
5	自分が住んでいる地域など、特定の地域の食品を買いたいから	854	16.5
6	食品を買うことにより、その食品の生産地を応援したいから	600	11.6
7	放射性物質の含まれていない食品を買いたいから	446	8.6
8	その他	160	3.1

(5) 特に産地に注意している食品 (問9)

「問 普段の買物で食品の生産地を気にする理由として「放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答された方にお聞きします。あなたが、特に産地に注意している食品を次の選択肢から選んでください。」(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	米	236	4.6
2	野菜	318	6.1
3	果物	197	3.8
4	卵	134	2.6
5	牛乳	137	2.6
6	牛肉	224	4.3
7	豚肉	220	4.3
8	鶏肉	209	4.0
9	鮮魚介類	247	4.8
10	きのこ類	144	2.8
11	茶	97	1.9
12	清涼飲料類・酒類	43	0.8
13	加工食品(惣菜・弁当・冷凍食品・お菓子類 など)	103	2.0
14	その他の食品	1	0.0

(6) 食品を買うことをためらう産地 (問 10)

「問 普段の買物で食品の生産地を気にする理由として「放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答された方にお聞きします。あなたが、食品を買うことをためらう産地を次の中から選んでください。」(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	福島県	205	4.0
2	被災地を中心とした東北 (※岩手県、宮城県、福島県)	154	3.0
3	東北全域 (※青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)	66	1.3
4	北関東 (※茨城県、栃木県、群馬県)	63	1.2
5	東日本全域 (※青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、新潟県、静岡県)	71	1.4
6	その他	82	1.6

(7) 風評を防止するために行うべきこと (問 11)

「問 あなたは、風評被害を防止し、売られている食品を安心して食べるために、どのようなことが行われるとよいと思いますか。」(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	海外と比較し、厳しい安全対策を実施している旨の内外への情報提供	1195	23.1
2	食品に含まれる放射性物質に関する科学的な説明	1410	27.2
3	それぞれの食品の安全に関する情報提供 (検査結果など)	2175	42.0
4	それぞれの食品の産地や製品の魅力に関する情報提供	1419	27.4
5	産品に触れる機会の増加(実際に購入できる機会の増加)	899	17.4
6	マスメディア等を通じた個別の食品や食品全般についての PR	968	18.7
7	何をやっても安心できるとは思わない	1130	21.8
8	その他	78	1.5

(8) 放射性物質に対するリスクの捉え方 (問 12)

「問 あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど低い線量のリスクをどう受け止めますか。」(単回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	基準値以内であっても少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない	599	11.6
2	基準値以内であれば、他の発がん要因(喫煙、過度の飲酒、塩分摂取など)と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる	1653	31.9
3	放射性物質以外の要因でもがんは発生するのだから、ことさら気にしない	995	19.2
4	十分な情報がないため、リスクを考えられない	1887	36.5
5	その他	42	0.8

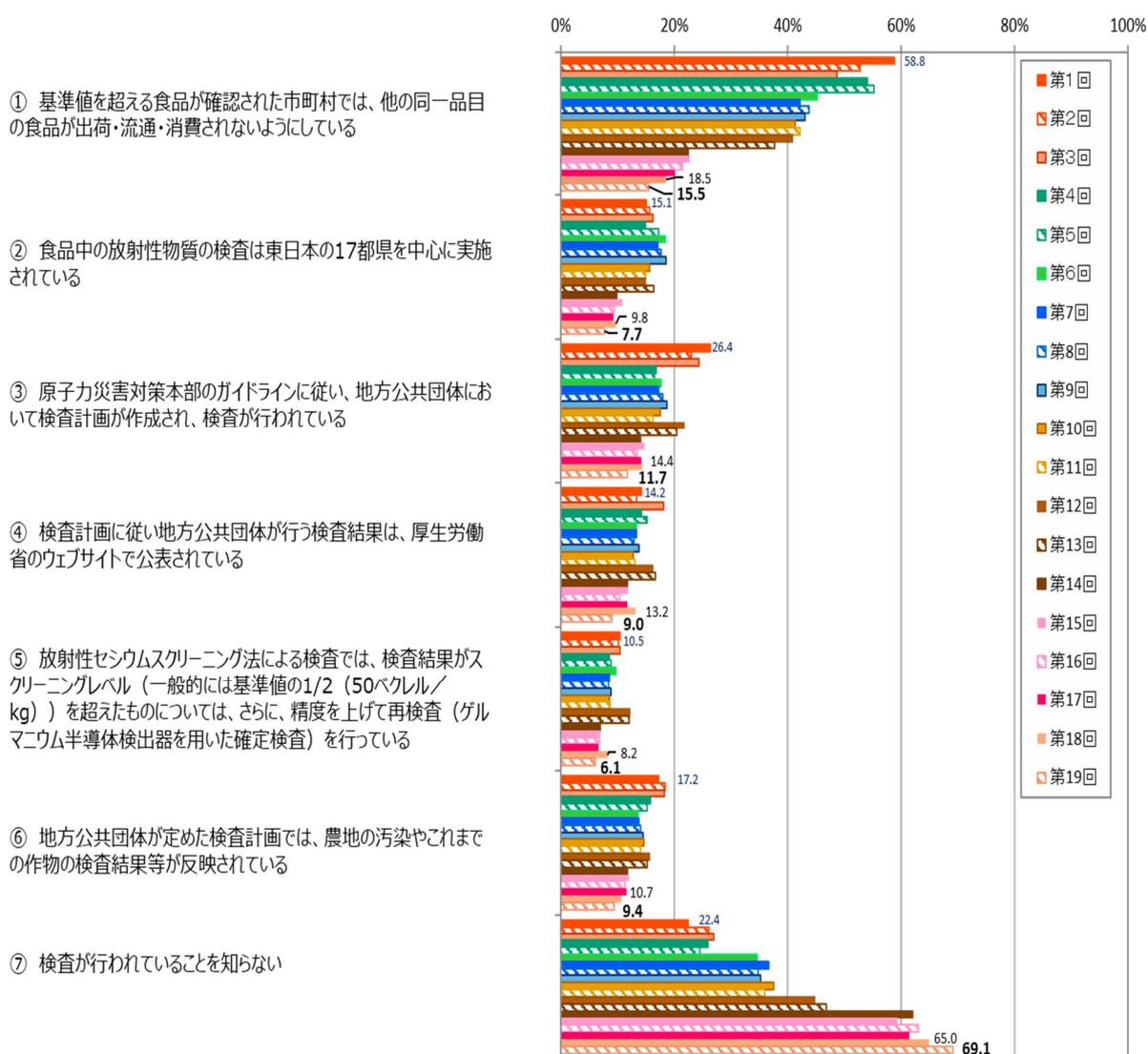
2 経年推移による結果

(1) 放射性物質に関する検査の知識 (問5 グラフ)

「問 食品中の放射性物質の検査の情報について、あなたが知っていることをお答えください。」(複数回答)

食品中の放射性物質の検査について、六つの項目すべてで知っているという割合が昨年度より減少している。

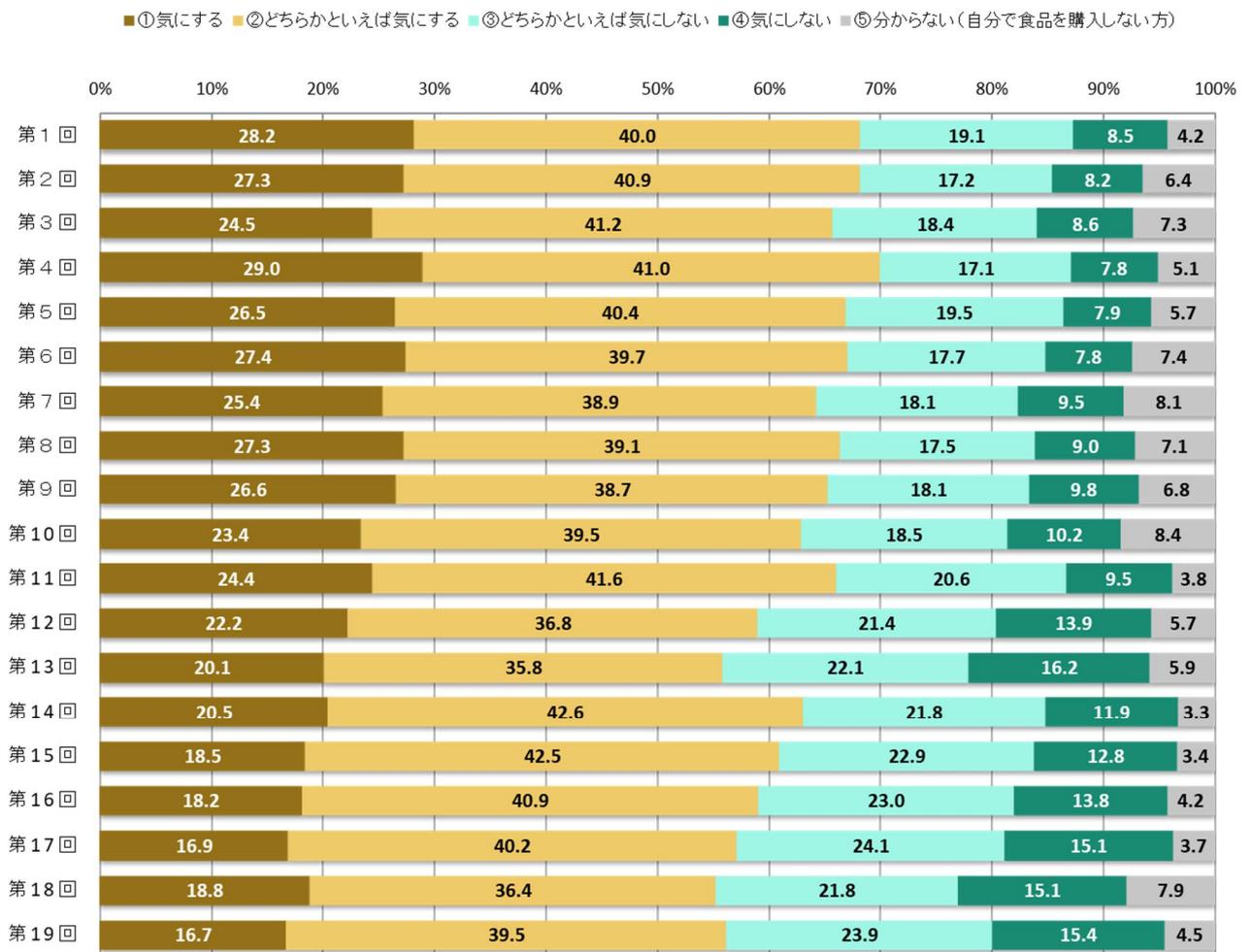
一方、「⑦検査が行われていることを知らない」との回答は 4.1 ポイントの増加となった。



(2) 食品産地に関する意識 (問7 グラフ)

「問 あなたは、普段の買物で食品を購入する際に、その食品がどこで生産されたかを気にされますか。」(単回答)

食品購入時に、食品の産地を「①気にする」は減少したが「②どちらかといえば気にする」が増加し、回答者の合計は第 18 回と比較して増加している。一方、「③どちらかといえば気にしない」と「④気にしない」は増加し、「⑤分からない(自分で食品を購入しない方)」は 3.4 ポイントの減少となった。



(3) 食品の産地を気にする理由 (問8 グラフ)

「問 普段の買物で食品の生産地を「気にする(どちらかといえば気にする)」と回答された方にお聞きます。あなたが、その食品がどこで生産されたかを気にされるのは、どのような理由からでしょうか。」(複数回答)

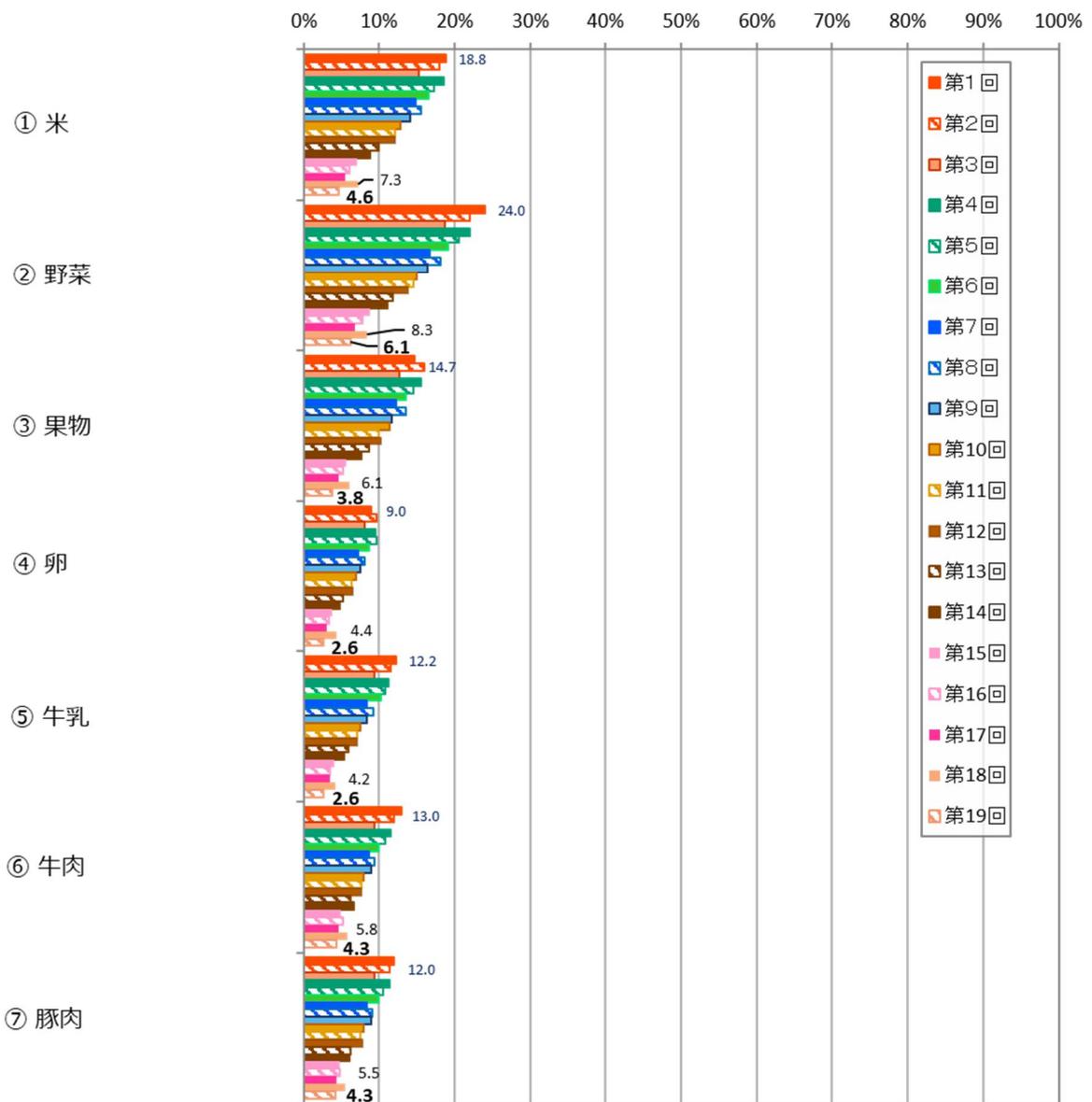
問7で、産地を「①気にする」又は「②どちらかといえば気にする」と回答した 2,908 人(回答者全体のうちの 56.2%)について、その理由を尋ねたところ、「産地によって品質(味)が異なるから」と「自分が住んでいる地域など、特定の地域の食品を買いたいから」は増加した。一方、それ以外の選択肢は第 18 回よりも減少となった。



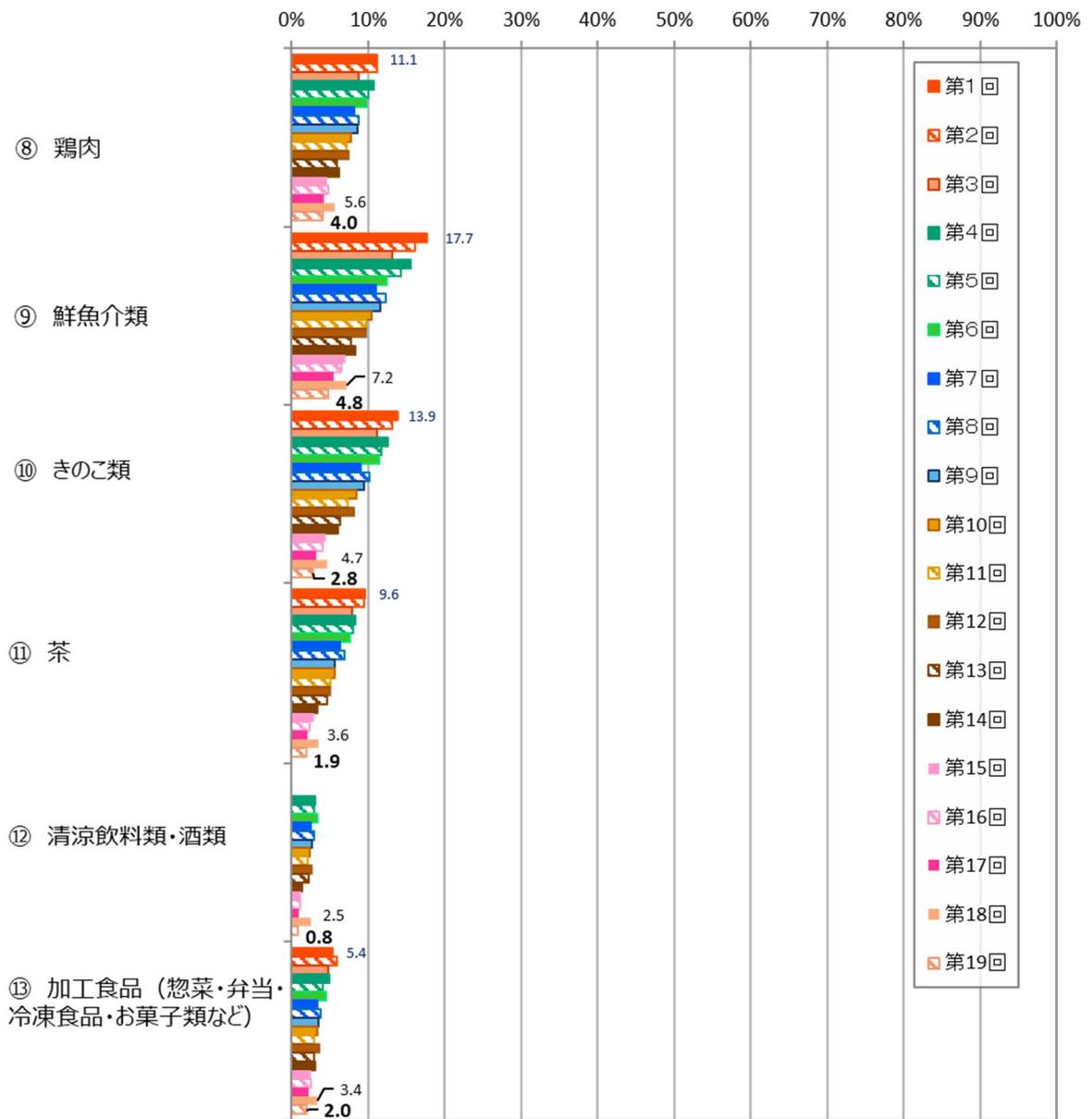
(4) 特に産地に注意している食品 (問9 グラフ)

「問 普段の買物で食品の生産地を気にする理由として「放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答された方にお聞きします。あなたが、特に産地に注意している食品を次の選択肢から選んでください。」(複数回答)

問8で、「⑦放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答した 446 人 (回答者全体のうちの 8.6%) に対して、特に産地に注意している食品について尋ねたところ、全ての選択肢で第 18 回よりも、1.2 ポイントから 2.7 ポイントの減少となった。



(グラフは次ページに続く)

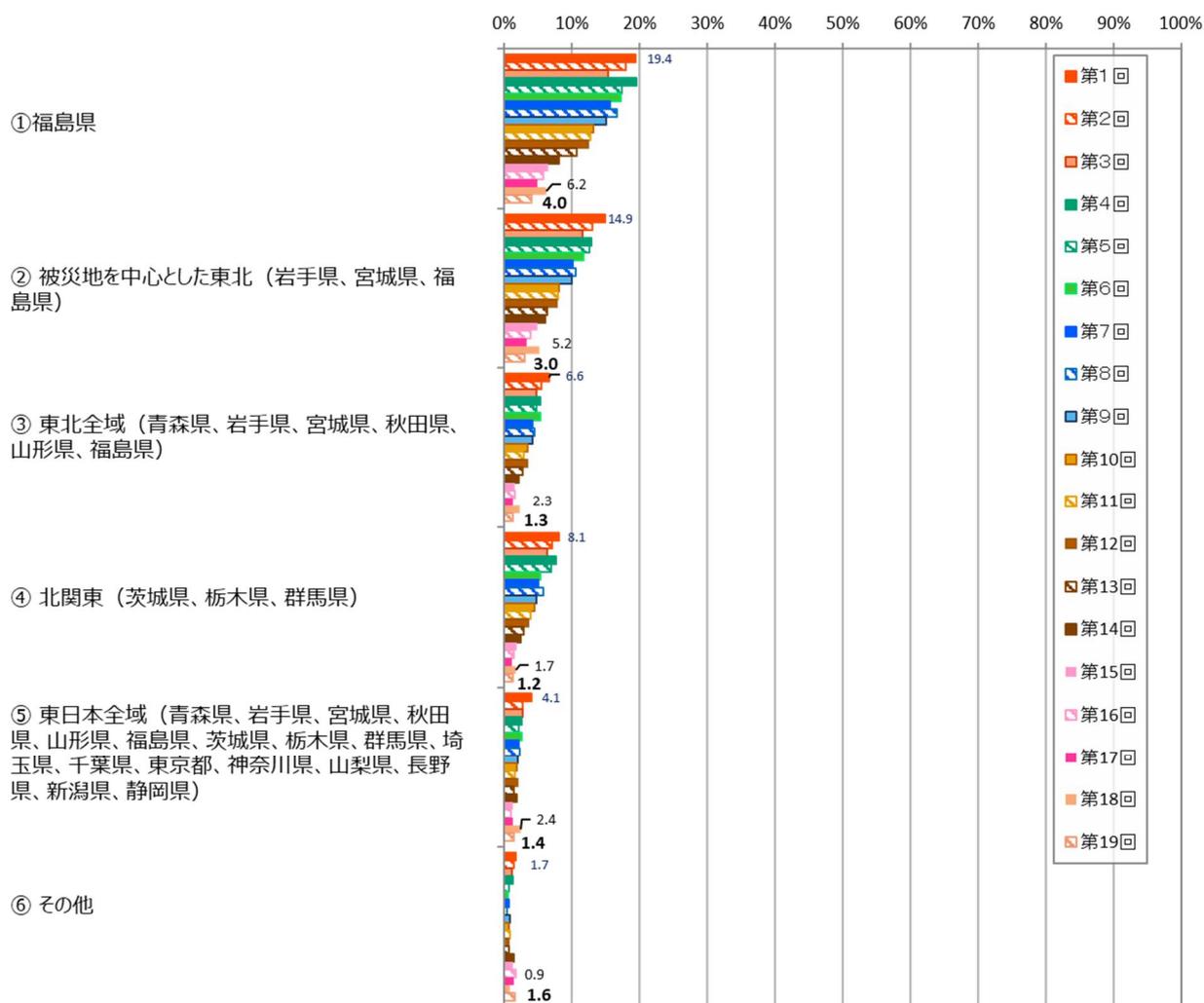


食品を買うことをためらう産地（問 10 グラフ）

「問 普段の買物で食品の生産地を気にする理由として「放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答された方にお聞きます。あなたが、食品を買うことをためらう産地を次の中から選んでください。」(複数回答)

問8で、「⑦放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答した 446 人（回答者全体のうちの 8.6%）に対して、購入をためらう産地を尋ねたところ、「⑥その他」を除き、全ての選択肢で第 18 回よりも回答率が減少した。

このうち、「①福島県」と回答した人の割合は、回答者全体に対して、（第1回 19.4%→第 18 回 6.2%→第 19 回 4.0%）となった。

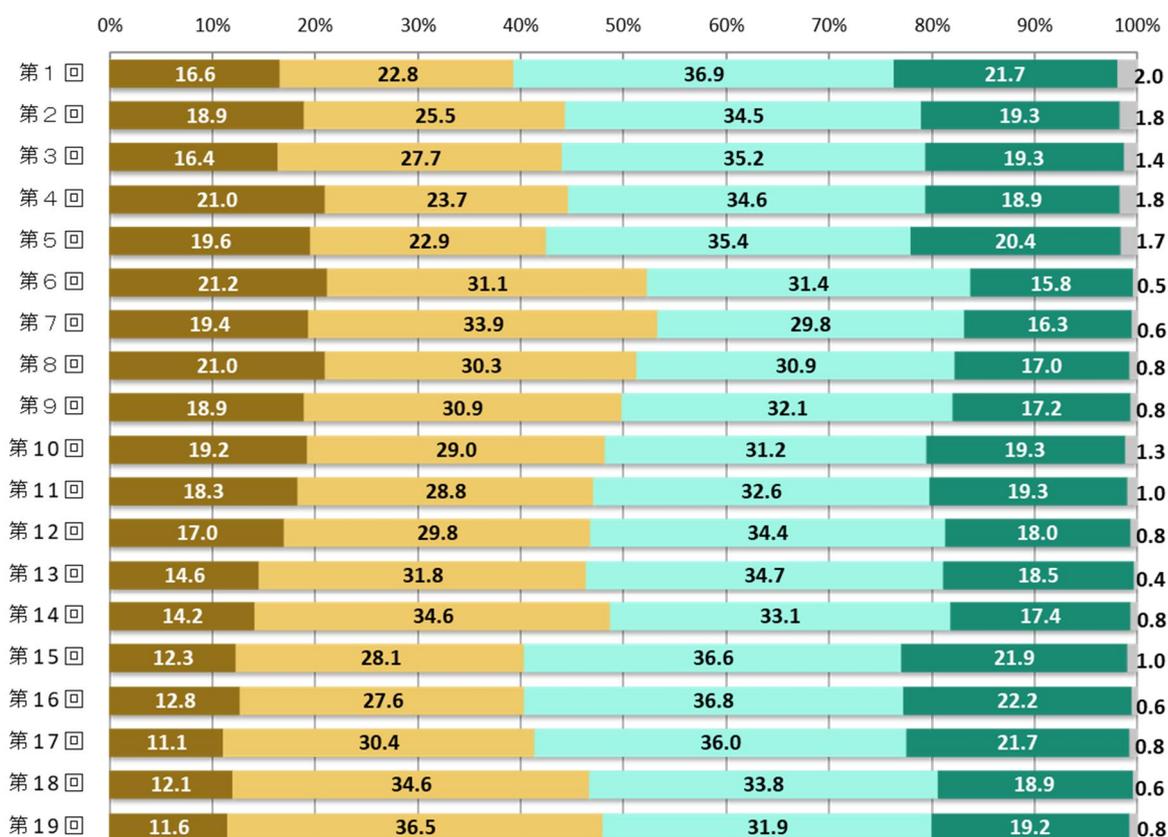


(5) 放射性物質に対するリスクの捉え方 (問 12 グラフ)

「問 あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど低い線量のリスクをどう受け止めますか。」(単回答)

低線量の放射線リスクの受け止め方については、「①基準値以内であっても少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない」と「③基準値以内であれば、他の発がん要因と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる」は減少した。「②十分な情報がないため、リスクを考えられない」は 36.5%で過去 18 回と比較し最も高い値となった。

- ①基準値以内であっても少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない
- ②十分な情報がないため、リスクを考えられない
- ③基準値以内であれば、他の発がん要因と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる
- ④放射性物質以外の要因でもがんは発生するのだから、殊更気にしない
- ⑤その他



3 クロス集計結果

(1) 放射性物質に関する検査の知識 (問5 性別・年代・居住地域別)

「検査が行われていることを知らない」と回答した人の割合は、全体結果(69.1%)との比較で、年代別では60代が6ポイントほど小さく、地域別では福島県が30ポイント以上小さい結果となった。

		n	基準値を超える食品が確認された市町村で、他の同一品目の食品が出荷・流通・消費されないようにしている	食品中の放射性物質の検査は、東日本の17都府県を中心に実施されている	原子力災害対策本部のガイドラインに従い、地方公共団体において検査計画が作成され、検査が行われている	検査計画に従い、厚生労働省のウェブサイトで公表されている	放射線計測器(ゲルマニウム半導体検出器)を用いた検査(ゲルマニウム半導体検出器)を行っている	放射性セシウムスクリーニング法による検査は、検査結果がスクリーニングレベル(一般的是な基準値の1/2〜50ベクレル/kg)を超えたものについては、さらに精度を上げて再検査(ゲルマニウム半導体検出器)を行う	地方公共団体が定めた検査計画では、農地の汚染やこれまでの作物の検査結果等が反映されている	検査が行われていることを知らない	その他
全体		5176 100.0	803 15.5	398 7.7	604 11.7	468 9.0	314 6.1	488 9.4	3576 69.1	60 1.2	
性別	男性	2607 100.0	381 14.6	217 8.3	291 11.2	242 9.3	179 6.9	245 9.4	1841 70.6	20 0.8	
	女性	2569 100.0	422 16.4	181 7.0	313 12.2	226 8.8	135 5.3	243 9.5	1735 67.5	40 1.6	
年代	20代	853 100.0	95 11.1	50 5.9	93 10.9	70 8.2	63 7.4	78 9.1	619 72.6	2 0.2	
	30代	1121 100.0	135 12.0	75 6.7	111 9.9	88 7.9	59 5.3	79 7.0	811 72.3	6 0.5	
	40代	1148 100.0	183 15.9	84 7.3	132 11.5	103 9.0	66 5.7	101 8.8	811 70.6	14 1.2	
	50代	948 100.0	165 17.4	76 8.0	116 12.2	86 9.1	55 5.8	85 9.0	635 67.0	17 1.8	
	60代	1106 100.0	225 20.3	113 10.2	152 13.7	121 10.9	71 6.4	145 13.1	700 63.3	21 1.9	
居住地	岩手県	100 100.0	26 26.0	9 9.0	15 15.0	12 12.0	8 8.0	16 16.0	60 60.0	0 0.0	
	宮城県	179 100.0	41 22.9	17 9.5	30 16.8	21 11.7	13 7.3	21 11.7	107 59.8	2 1.1	
	福島県	144 100.0	58 40.3	20 13.9	39 27.1	33 22.9	16 11.1	36 25.0	47 32.6	3 2.1	
	茨城県	230 100.0	48 20.9	28 12.2	33 14.3	23 10.0	20 8.7	33 14.3	145 63.0	5 2.2	
	埼玉県	572 100.0	82 14.3	40 7.0	64 11.2	48 8.4	46 8.0	58 10.1	396 69.2	5 0.9	
	千葉県	490 100.0	84 17.1	38 7.8	49 10.0	42 8.6	33 6.7	50 10.2	333 68.0	6 1.2	
	東京都	1080 100.0	163 15.1	92 8.5	157 14.5	110 10.2	73 6.8	102 9.4	743 68.8	15 1.4	
	神奈川県	715 100.0	110 15.4	49 6.9	83 11.6	68 9.5	38 5.3	63 8.8	497 69.5	5 0.7	
	愛知県	567 100.0	79 13.9	39 6.9	50 8.8	43 7.6	19 3.4	43 7.6	411 72.5	5 0.9	
	大阪府	677 100.0	60 8.9	37 5.5	47 6.9	39 5.8	32 4.7	43 6.4	530 78.3	7 1.0	
	兵庫県	422 100.0	52 12.3	29 6.9	37 8.8	29 6.9	16 3.8	23 5.5	307 72.7	7 1.7	

(2) 食品の産地を気にする理由 (問8 性別・年代・居住地域別)

食品の産地を気にする理由として、「放射性物質の含まれていない食品を買いたい」と回答した人の割合は、全体結果(8.6%)との比較で、性別と年代別での全体結果との差は小さく、居住地域別では、福島県で全体結果よりも5ポイント以上小さい結果となった。

	n	(産地によって品質が異なるから)	産地によって鮮度が異なるから	産地によって価格が異なるから	ブランド価値のある特産品を買いたいから	自分が住んでいる地域など、特定の地域の食品を買いたいから	食品を買うことに伴って、その食品の生産地を応援したいから	放射性物質の含まれていない食品を買いたいから	その他	
全体	5176 100.0	1232 23.8	904 17.5	867 16.8	331 6.4	854 16.5	600 11.6	446 8.6	160 3.1	
性別	男性	2607 100.0	572 21.9	385 14.8	392 15.0	185 7.1	333 12.8	266 10.2	202 7.7	73 2.8
	女性	2569 100.0	660 25.7	519 20.2	475 18.5	146 5.7	521 20.3	334 13.0	244 9.5	87 3.4
年代	20代	853 100.0	155 18.2	114 13.4	142 16.6	59 6.9	93 10.9	79 9.3	51 6.0	11 1.3
	30代	1121 100.0	227 20.2	201 17.9	201 17.9	78 7.0	159 14.2	147 13.1	93 8.3	28 2.5
	40代	1148 100.0	270 23.5	194 16.9	204 17.8	83 7.2	192 16.7	131 11.4	112 9.8	40 3.5
	50代	948 100.0	237 25.0	176 18.6	166 17.5	61 6.4	173 18.2	103 10.9	93 9.8	33 3.5
	60代	1106 100.0	343 31.0	219 19.8	154 13.9	50 4.5	237 21.4	140 12.7	97 8.8	48 4.3
	居住地	岩手県	100 100.0	22 22.0	18 18.0	14 14.0	2 2.0	26 26.0	8 8.0	7 7.0
	宮城県	179 100.0	38 21.2	40 22.3	24 13.4	10 5.6	42 23.5	17 9.5	11 6.1	3 1.7
	福島県	144 100.0	23 16.0	20 13.9	20 13.9	8 5.6	28 19.4	20 13.9	5 3.5	1 0.7
	茨城県	230 100.0	45 19.6	29 12.6	35 15.2	17 7.4	40 17.4	31 13.5	15 6.5	5 2.2
	埼玉県	572 100.0	139 24.3	96 16.8	103 18.0	36 6.3	100 17.5	75 13.1	62 10.8	17 3.0
	千葉県	490 100.0	125 25.5	97 19.8	84 17.1	38 7.8	89 18.2	54 11.0	48 9.8	15 3.1
	東京都	1080 100.0	263 24.4	181 16.8	180 16.7	72 6.7	136 12.6	126 11.7	90 8.3	42 3.9
	神奈川県	715 100.0	178 24.9	127 17.8	126 17.6	48 6.7	109 15.2	95 13.3	63 8.8	19 2.7
	愛知県	567 100.0	123 21.7	103 18.2	98 17.3	24 4.2	104 18.3	64 11.3	53 9.3	14 2.5
	大阪府	677 100.0	176 26.0	120 17.7	105 15.5	52 7.7	95 14.0	74 10.9	58 8.6	25 3.7
	兵庫県	422 100.0	100 23.7	73 17.3	78 18.5	24 5.7	85 20.1	36 8.5	34 8.1	16 3.8

※問8の回答者数は、問7で、普段の買物で食品の生産地を「気にする」又は「どちらかといえば気にする」と回答した2,908名

(3) 食品を買うことをためらう産地 (問 10 性別・年代・居住地域別)

「福島県」「被災地を中心とした東北」は男性より女性の方が、食品を買うことをためらう割合が大きい傾向がある。「福島県」は居住地別では千葉県が最も大きく、岩手県が最も小さかった。

		n	福島県	被災地を中心とした東北 (※岩手県、宮城県、福島県)	東北全域 (※青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)	北関東 (※茨城県、栃木県、群馬県)	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、長野県、新潟県、静岡県)	東日本全域 (※青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、長野県、新潟県、静岡県)	その他
全体		5176 100.0	205 4.0	154 3.0	66 1.3	63 1.2	71 1.4	82 1.6	
性別	男性	2607 100.0	83 3.2	64 2.5	33 1.3	39 1.5	44 1.7	36 1.4	
	女性	2569 100.0	122 4.7	90 3.5	33 1.3	24 0.9	27 1.1	46 1.8	
年代	20代	853 100.0	15 1.8	21 2.5	12 1.4	8 0.9	11 1.3	11 1.3	
	30代	1121 100.0	32 2.9	36 3.2	13 1.2	15 1.3	21 1.9	18 1.6	
	40代	1148 100.0	60 5.2	36 3.1	18 1.6	17 1.5	19 1.7	16 1.4	
	50代	948 100.0	52 5.5	32 3.4	13 1.4	15 1.6	6 0.6	12 1.3	
	60代	1106 100.0	46 4.2	29 2.6	10 0.9	8 0.7	14 1.3	25 2.3	
居住地	岩手県	100 100.0	1 1.0	2 2.0	3 3.0	1 1.0	2 2.0	2 2.0	
	宮城県	179 100.0	6 3.4	1 0.6	1 0.6	0 0.0	1 0.6	3 1.7	
	福島県	144 100.0	2 1.4	1 0.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 1.4	
	茨城県	230 100.0	7 3.0	4 1.7	2 0.9	2 0.9	2 0.9	6 2.6	
	埼玉県	572 100.0	27 4.7	18 3.1	7 1.2	10 1.7	11 1.9	9 1.6	
	千葉県	490 100.0	25 5.1	14 2.9	6 1.2	6 1.2	10 2.0	7 1.4	
	東京都	1080 100.0	48 4.4	34 3.1	13 1.2	21 1.9	16 1.5	9 0.8	
	神奈川県	715 100.0	30 4.2	21 2.9	7 1.0	5 0.7	10 1.4	14 2.0	
	愛知県	567 100.0	23 4.1	22 3.9	10 1.8	7 1.2	9 1.6	10 1.8	
	大阪府	677 100.0	23 3.4	22 3.2	11 1.6	6 0.9	8 1.2	12 1.8	
	兵庫県	422 100.0	13 3.1	15 3.6	6 1.4	5 1.2	2 0.5	8 1.9	

※問10の回答者数は、問8で、普段の買物で食品の生産地を気にする理由として「放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答した446名

(4) 放射性物質に対するリスクの捉え方 (問 12 性別・年代・居住地別)

基準値以内であれば受け入れられると回答した人の割合は、60代が全体結果(31.9%)より7ポイント以上大きく39.5%となった。居住地別では福島県が7ポイント以上大きく38.9%となった。

		n	けん 入 れ ス ク 以 内 で あ る 可 能 性 が あ り 、 受 が	基 準 値 以 内 で あ れ ば 受 け 入 れ ら れ る	ど の 検 査 と 比 べ る 下 で 流 通 し て い く 食 品	因 (喫 煙、 過 度 の 飲 酒、 他 の 塩 分 摂 取 な 要	い 生 放 射 性 物 質 の だ か ら 、 こ と さ ら も 気 に し な	え 十 分 な 情 報 が な い た め 、 リ ス ク を 考	そ の 他
全体		5176 100.0	599 11.6	1653 31.9	995 19.2	1887 36.5	42 0.8		
性別	男性	2607 100.0	270 10.4	777 29.8	556 21.3	990 38.0	14 0.5		
	女性	2569 100.0	329 12.8	876 34.1	439 17.1	897 34.9	28 1.1		
年代	20代	853 100.0	90 10.6	258 30.2	166 19.5	337 39.5	2 0.2		
	30代	1121 100.0	137 12.2	314 28.0	199 17.8	466 41.6	5 0.4		
	40代	1148 100.0	150 13.1	341 29.7	217 18.9	429 37.4	11 1.0		
	50代	948 100.0	114 12.0	303 32.0	182 19.2	338 35.7	11 1.2		
	60代	1106 100.0	108 9.8	437 39.5	231 20.9	317 28.7	13 1.2		
居住地	岩手県	100 100.0	7 7.0	30 30.0	22 22.0	41 41.0	0 0.0		
	宮城県	179 100.0	18 10.1	60 33.5	43 24.0	58 32.4	0 0.0		
	福島県	144 100.0	6 4.2	56 38.9	52 36.1	29 20.1	1 0.7		
	茨城県	230 100.0	16 7.0	75 32.6	54 23.5	84 36.5	1 0.4		
	埼玉県	572 100.0	76 13.3	192 33.6	108 18.9	191 33.4	5 0.9		
	千葉県	490 100.0	57 11.6	153 31.2	86 17.6	192 39.2	2 0.4		
	東京都	1080 100.0	125 11.6	346 32.0	208 19.3	388 35.9	13 1.2		
	神奈川県	715 100.0	86 12.0	237 33.1	137 19.2	248 34.7	7 1.0		
	愛知県	567 100.0	67 11.8	184 32.5	97 17.1	216 38.1	3 0.5		
	大阪府	677 100.0	79 11.7	196 29.0	112 16.5	285 42.1	5 0.7		
	兵庫県	422 100.0	62 14.7	124 29.4	76 18.0	155 36.7	5 1.2		